

令和6（2024）年度 資源評価調査報告書（拡大種）

種名	ヒラツメガニ	対象水域	太平洋北部（青森～茨城）
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、青森県産業技術センター水産総合研究所、岩手県水産技術センター、宮城県水産技術総合センター、福島県水産資源研究所、茨城県水産試験場	協力機関名	

1. 調査の概要

佐井村以東の青森県から茨城県にいたる各県が過去に遡ってまとめた主要港の漁業種類別水揚げ量をもとに、本資源の主要な漁業種類を抽出するとともに、海域別の漁獲量を求めた。また、各県の漁獲量集計値の変動から、現在の資源の水準および動向を判断した。

2. 漁業の概要

本資源は主に刺網、かご、小型底びき網（以下、「小底」という）を中心に、多様な漁業種によって漁獲される（図1）。主な漁業種は、青森県では刺網、岩手県、宮城県、福島県では刺網およびかご、茨城県では小底による漁獲が多い。漁獲量は各県によって集計期間が異なり、全県のデータが揃うのは2007年以降である。2010年以前には、青森県と福島県の2県で年間漁獲量の大半を占めていた（図2）。しかし、2011年に発生した東日本大震災（以下、「震災」という）の影響で福島県の漁獲量は大きく減少し、2011年以降は青森県の漁獲量が全体の5～9割を占めている。

2007年以降の全県の漁獲量の推移をみると、2009年に211トン記録したのち大きく減少し、2014年には46トンとなった。2018年には126トンに増加したが、その後は再び減少しており、2023年の漁獲量は46トンであった。直近5年間（2019～2023年）の漁獲量は46～114トンであった。

3. 生物学的特性

(1) 分布・回遊：本種は、日本沿岸および朝鮮海峡、黄海、中国に分布している（三宅 1983、西村 1995）。また、アフリカ東南岸、オーストラリア、南アメリカの沿岸まで広く分布するとの情報もある（酒井 1935、1976、三宅 1983）。本種は水深 10～350 m の主に浅海の砂・砂泥・貝殻底に生息し、小型個体ほど浅場（水深 5 m ほど）に多い（三宅 1983、西村 1995、秋元 1978）。また、春から夏にかけて沿岸に接岸

- する傾向がある（秋元 1978）。砂地での生活に適応しており、強い遊泳力と潜砂性を備える（Brown and McLachlan 1990）。
- (2) 年齢・成長：本種は、孵化後に浮遊幼生期（ゾエアは5期）を経て砂底に着底する。着底時期は3～4月であり、仙台湾では、1歳時の甲幅は雌雄ともに50～65 mm、2歳時の甲幅は雄で80～95 mm、雌で70～90 mmである（Sasaki and Kawasaki 1980）。なお、寿命は2～2.5年程度である（Sasaki and Kawasaki 1980）。
- (3) 成熟・産卵：仙台湾では、成熟時の最小サイズは甲幅45～50 mm級と推定されているが、産卵集団は、おもに甲幅75～80 mm級を中心とする2歳の個体で構成されている（Sasaki and Kawasaki 1980）。福島県では、抱卵期は7～10月を除き広くみられる（秋元 1978）。また仙台湾では、9月中旬～11月中旬に水深40～60 mの海域で産卵する（Sasaki and Kawasaki 1980）。
- (4) 被捕食関係：本種は肉食性で、甲殻類、軟体類、魚類などを捕食する（秋元 1978、Brown and McLachlan 1990、Takahashi and Kawaguchi 2000）。

4. 資源状態

本資源は青森県と福島県を中心に漁獲されていたが、震災の影響によって福島県の漁獲量は大幅に低下した。したがって、福島県を除く4県の漁獲量が揃った2007年以降の全漁業種による漁獲量を用いて、本資源の水準と動向を判断した。青森県の漁獲量は増減を繰り返しており、直近では、2020年に2007年以降で3番目に多い88トン記録したが、その後減少に転じており、2023年は過去最低の23トンであった。岩手県および宮城県の漁獲量は、2012年頃から2018年にかけて増加傾向にあり、その後、岩手県では2023年にかけて減少傾向を継続したが、宮城県ではやや増加傾向となっていた。茨城県では、1998年に100トンを上回ったものの、これ以降はおおむね10トン前後となり、2023年には1トンを下回る水準となっている。本資源の水準として、4県の合計漁獲量の最小値（38トン）と最大値（128トン）の間を3等分し、低中位の境界を68トン、中高位の境界を98トンとした（図3）。2023年は38トンであることから、資源状態は低位と判断した。また、直近5年間（2019～2023年）の漁獲量は減少傾向にあることから、動向は減少と判断した。

5. その他

資源回復のための取り組みは行われていない。本種は生物特性や資源構造に不明な点が多く、さらなる情報収集が必要である。

6. 引用文献

- 三宅禎祥 (1983) 原色日本大型甲殻類図鑑 (II). 保育社, 大阪. viii+277 pp.
- 西村三郎 (編) (1995) 原色検索日本海岸動物図鑑 [II]. 保育社, 大阪. xii+663 pp., pls. 73-144.
- 酒井 恒 (1935) 日本蟹類図説. 三省堂, 東京. 239+12+27 pp., 77 pls.
- 酒井 恒 (1976) 日本産蟹類. 講談社, 東京. 461 pp., 773 pp., 251 pp.
- 秋元義正 (1978) 福島県沿岸におけるヒラツメガニについて. 福島水試研報, 5: 53-64.

- Brown, A.C. and McLachlan, A. (1990) Ecology of sandy shores. Elsevier, Amsterdam., 328p.
- Sasaki, K. and Kawasaki, T. (1980) Some aspects of the reproductive biology of the swimming crab, *Ovalipes punctatus* (De Haan), in Sendai Bay and its adjacent waters. Tohoku J. Agric. Res., **30**: 183–194.
- Takahashi, K and K. Kawaguchi (2000) Nocturnal occurrence of the swimming crab *Ovalipes punctatus* in the swash zone of a sandy beach in northeastern Japan. Fish. Bull., **99**: 510-515.

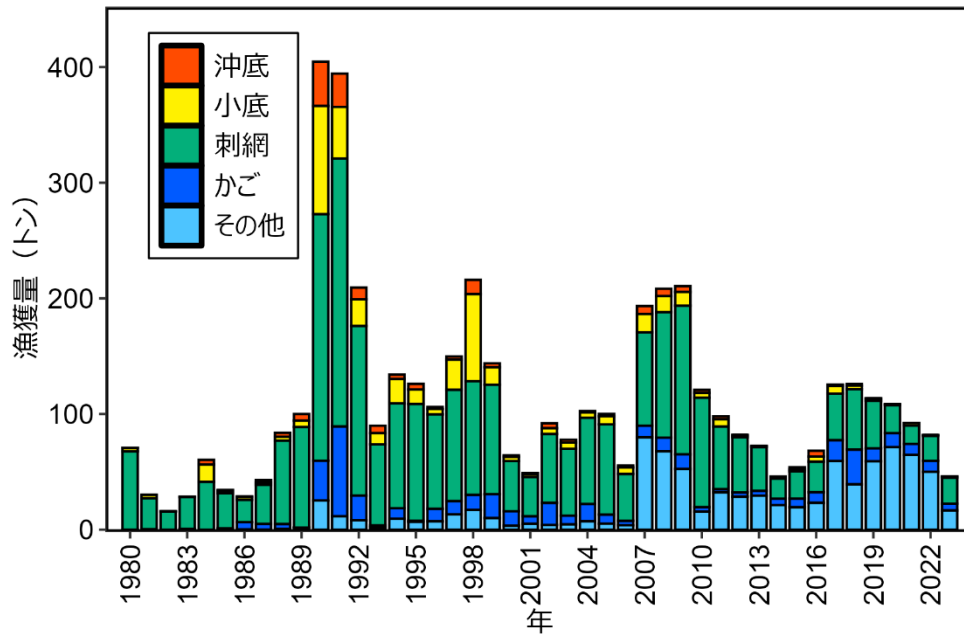


図1. ヒラツメガニの漁業種類別漁獲量 集計に用いた期間は県によって異なる（青森県：2007年以降、岩手県：1994年以降、宮城県：2000年以降、福島県：1980年以降、茨城県：1990年以降）。

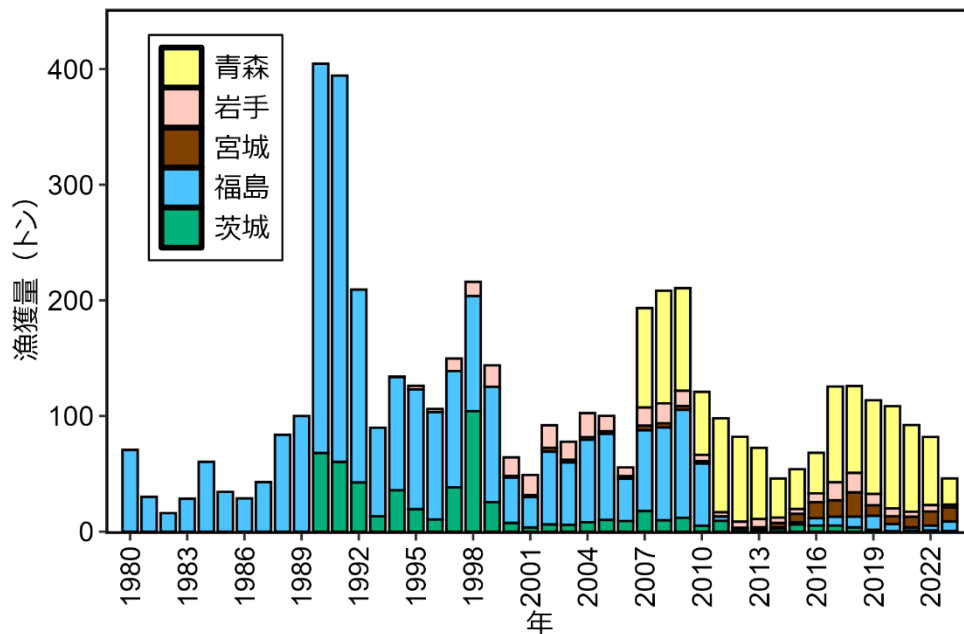


図2. ヒラツメガニの県別漁獲量 集計に用いた期間は県によって異なる（青森県：2007年以降、岩手県：1994年以降、宮城県：2000年以降、福島県：1980年以降、茨城県：1990年以降）。

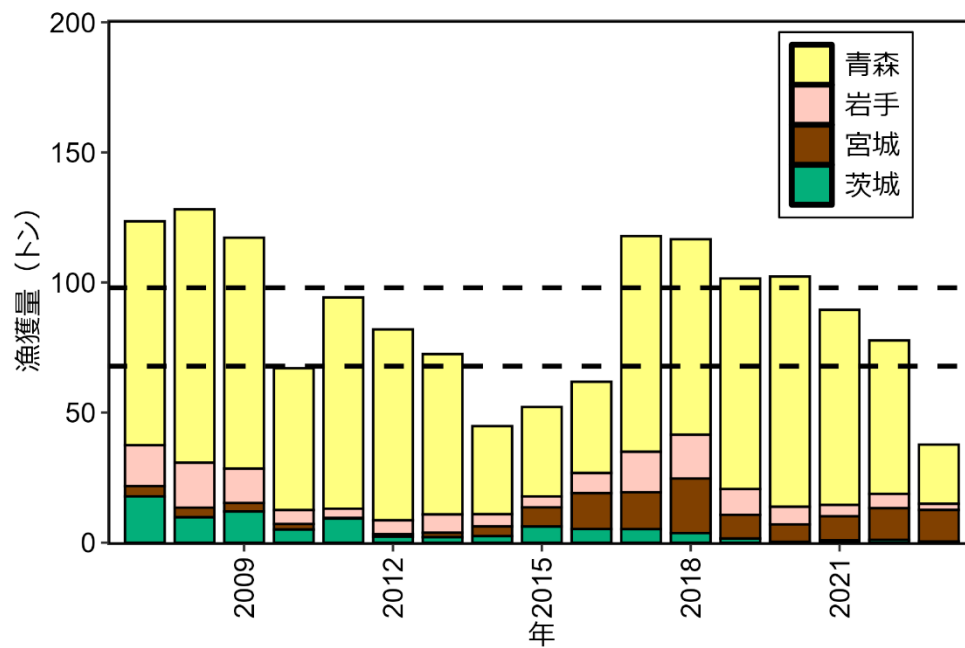


図3. 青森県、岩手県、宮城県および茨城県におけるヒラツメガニの漁獲量の推移
破線は高中位水準（98トン）または低中位水準（68トン）の境界を示す。

表 1. 各県の漁獲量（トン）

年	青森	岩手	宮城	福島	茨城	合計
1980	-	-	-	71	-	
1981	-	-	-	30	-	
1982	-	-	-	16	-	
1983	-	-	-	28	-	
1984	-	-	-	60	-	
1985	-	-	-	34	-	
1986	-	-	-	29	-	
1987	-	-	-	43	-	
1988	-	-	-	84	-	
1989	-	-	-	100	-	
1990	-	-	-	337	68	405
1991	-	-	-	334	60	394
1992	-	-	-	167	42	209
1993	-	-	-	77	13	90
1994	-	-	-	98	36	134
1995	-	-	-	104	19	126
1996	-	-	-	93	10	106
1997	-	11	-	101	38	150
1998	-	12	-	99	104	216
1999	-	19	-	100	25	144
2000	-	16	1	39	7	64
2001	-	17	2	26	4	49
2002	-	20	3	63	6	92
2003	-	16	2	54	6	78
2004	-	21	2	71	8	103
2005	-	13	2	74	10	100
2006	-	8	2	37	9	56
2007	86	16	4	70	18	193
2008	97	17	4	80	10	208
2009	89	13	3	93	12	211
2010	55	5	2	54	5	121
2011	81	4	0	4	9	98
2012	73	5	1	0	2	82
2013	62	7	2	0	2	72
2014	34	5	4	1	2	46
2015	34	4	7	2	6	54
2016	35	8	14	6	5	68
2017	83	16	14	8	5	125
2018	75	17	21	9	4	126
2019	81	10	9	12	2	114
2020	88	7	7	6	0	108
2021	75	4	9	3	1	92
2022	59	5	12	4	1	82
2023	23	2	12	8	0	46